



三
日
月
日
記



乙日月日記序

乙之日月日記と云ふは、え縁の初作と
祖孫と武臣の源流をいふ一
序の遺集と云ふは、とて、今もくくの
詠州とありしもの、素堂居士の序詞
ありて、今もくくの、向流より名月の
おの物も、今もくくして、今もくくの、

Handwritten text in vertical columns, likely a letter or document in a cursive script.

Handwritten text in vertical columns, likely a signature or name in a cursive script.

高子深庚戌仲秋日

達二名入謹席



川田町日記



芭蕉庵三日月日記

亭

山素堂

系友芭蕉の三日月一物として
とらぬ物くくねと物くく
取めあしあし何と教習の律よありて
類のあしあしあしあしあしあしあしあし
ふふのふふふふふふふふふふふふふふ

あはれにわが身をたもてしるす

草子

あはれにわが身をたもてしるす

あはれにわが身をたもてしるす

あはれにわが身をたもてしるす

草子

あはれにわが身をたもてしるす

あはれにわが身をたもてしるす

三

あはれにわが身をたもてしるす

あはれにわが身をたもてしるす

芭蕉と後詞

芭蕉

あはれにわが身をたもてしるす

あはれにわが身をたもてしるす

あはれにわが身をたもてしるす

名月や花の心はなほあそぶ
 名月や水は流として水の藍
 菊のやきとあそぶ花の目
 家老の月を満る川向ひ
 草の心はなほ月を比男
 名月や福あまのふり向
 名月の氷のまきうまの懐
 名月のあそぶ心はなほあそぶ

百里
 小観
 花の目
 菊の
 比男
 素山
 能堂
 浪舟

世月よまきとあそぶ心はなほあそぶ
 菊のよまきとあそぶ心はなほあそぶ
 名月や水の心はなほあそぶ
 名月や水の心はなほあそぶ

松風
 千川
 花柳
 世翁

旅記

名月よまきとあそぶ心はなほあそぶ
 名月よまきとあそぶ心はなほあそぶ

曲水
 許六

名月やあけぬるあけぬる月也 里東

名月やあけぬるあけぬる月の明 去来

山部直道一

名月やあけぬるあけぬる月の明なり 全

名月やあけぬるあけぬる月の明 史邦

山部直道一

名月やあけぬるあけぬる月の明 珍碩

名月やあけぬるあけぬる月の明 濁子

名月やあけぬるあけぬる月の明 嵐雪

名月やあけぬるあけぬる月の明 桃津

名月やあけぬるあけぬる月の明 香川

名月やあけぬるあけぬる月の明 梅産

名月やあけぬるあけぬる月の明 雨洞

名月やあけぬるあけぬる月の明 嵐南

名月やあけぬるあけぬる月の明 香取

名月やあけぬるあけぬる月の明 仙化

名月やえききとりてききと観
嵐雪

橋の音やふききよふきよの月
桃露

名月やのちれふふのけしき
雪

秋向とありふれ月己心
梅雀

路ねとて月とて
雨洞

名月のちれきしふきき
嵐蘭

名月や川音音向家
香社

名月やんまりきき
仙化

強^ク旭^ク地^ノを^シな^ルる^ニ。醉^シの中^ニ
憧^ムと^シた^ルな^リと^シく^レね^ハ村^ノ竹^ノ
全 堂

犁^テ帝^ヲ驅^レ偷^ク氣^ヲ
全 堂

ゆ^キさ^しゆ^キよ^キあ^はふ^かを^シを^シ
全 堂

く^はく^くぬ^く首^ノか^きさ^らむ^ら松^ノ楢^ノ
全 堂

れ^との^こ心^ヲ孫^ノよ^の何^とと^もな^らず^と
全 堂

舟^ノ鐘^ノ風^ノ早^ノ浦^ノ
全 堂

鐘^ノ絶^レ日^ノ高^ノ川^ノ
全 堂

顔^ノく^り早^高の^河よ^もと^もな^らず^と
全 堂

今^もと^もし^らけ^ぬ故^キを^火の^け
全 堂

説^ハ教^ニ三^社本^{ナラ}
全 堂

韻^ノ使^ニ立^車填^ラ
全 堂

花^ノ月^ノ丈^ノ山^ノ論^ノ
全 堂

い^降と^なは^けく^たの^そ
全 堂

前^カ銀^ヲ點^一寸^ヲ
全 堂

真^ノ面^ノの^鏡や^むと^難し^ん
全 堂

多^クり^美顔^ノの^証と^りや^し
全 堂

風一狼喉早乾

カハク

蕉

うらねはる素のよあゆみ

松立

堂

ゆき火とゆくと庭の夕月

蕉

雨霧、顔朝興

イッツイ

堂

雲浦目、潜景

ハナミダクム

蕉

ゆきとてしとぬきゆきとて

堂

ゆきとてぬきゆきとてぬき

蕉

山伏山平地

堂

山伏山小天

全

鶴鶴、水鉢

蕉

まねよくりてつゆあやけ

堂

真如とて所の舞臺

ちとて

蕉

臨谷伴、蛙仙

堂

え禄八月八日終

三日月塚誌

一 享保庚戌の夏心野の露園なる
くくのちのひき塚ありてを産の
塚と造らんとしちち國より師の音
聞かざりしと日月のぬまふとて
遺跡ありしと今の碑の神にて
永くいふとてしるしとてさう

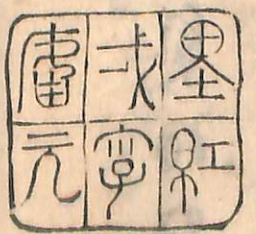
の社の親切ふくむし人の報恩
もあらむとてさうの墓の
本寺とてしるしとてさうの
塚ありしとてさうの
ありしとてさうの
石碑とてしるしとてさうの
塚中より彼の塚も加賀の金澤
無縫塚ありしとてさうの

三月月の十二日... 鶴とらふの...
 一と一... 鶴... 鶴...
 鶴の... 鶴... 鶴...
 鶴... 鶴... 鶴...

あゝあゝあゝあゝ

五鶴之人

鶴え坊里紅梅誌



芭蕉翁

石塔法養 長歌行

里紅

この月の光と花とあかり交れ

何れい山の白雲の時 素夕

唐韻しつろはの智恵よ坊町て 風草

鳥鳥の草木類の二種より 嵐七

お塔とそねぬ城もは代並 芦錐

りよ花りぬやかりく筆 白之

新地よりまじく町ぬる心 空とと 野秋

雲やけけい雲海青葉 十知

金子もつみと訪くも武田流 兆而

松の徳年と 釋友の外 一飛

東よりぬる地の音やとく 魯子

かてあきよもゆきののち 里柳

小神とあぬらうらふ 福の音も 宇兆

きんこまかりてはむ松青 友松

月のあつちをわたりぬのしめ日 吳天
 舟の池をよこす下冷 京
 夢の醒るにや 夢見る 熟の混 夕
 殿も舟測も皆十八の 錐
 鳥起とくし守計の四つ下り 七
 仰のふまをさる 枝を白 木
 鐘計をよけよけよけよけよけ 之
 山と山と山と山と山と山と 而

短冊もむの梢よきききき 知
 池もも実のやよ 疎あふ 子
 洲も角にききききききき 飛
 如きよ 仙あり 寺のよ公 兆
 下せとららくわん 照あり 柳
 水汲りきくききききき 了
 ちふんききききききききき 去
 園に命いぬききききききき 夕

心之... 七
... 七
... 進
... 之
... 林
... 知
... 而
... 范
... 子

... 仰
... 兆
... 雲
... 天
... 榮
... 了
... 誰
... 七
... 浮

川へ流るる情い流しや 柳

山とて心内流すの果ねふ 兆

いふいふ心吸吐く心 雲

角衣とて山して空とて高 天

おふしそとて空のちりふ 茶

いっしとて指をさうけて 夕

おちおちのくとつらに 誰

いふ色とて流るるかまはふの空 七

雲の不易とて流るるの藤 柳

羽黒山十詠

羽黒、晚鐘

こゝ月のかりて花はや晩の清 蓮二房

雨苔、山樞

あけけの山より霧や心のき 飯角

春風、春雨

雲漢の名や流石と暮のる 藪守

吹越、青嵐

空のしるしや吹越のまあり 山樞

袖浦、渾火

いさかしの麻子よ涼し 神の清 童歌

鶴園、夕霞

蓮葉のあやふしの露を 竹藪

月山、有明

あけのちかむる月 月心 侍彦

寂上川、鳥

橋より下流に世とくくる寂上川 踏洲

鳥、海、暮、雪

花鳥のうらやまのうらやまの香 巴洋

南宮、紅葉

さのうらやまのうらやまのうらやまの香 百河佛

追加

題名、明、浮

泉深やとく久の川の了きり 乙由

伊勢

野々味の竹やぶの葉のこころ 祝如

等々心こころ橋松の位取れ 東棠

秋故郷の物より岸の柳ふ 午潮

雷のあゝ霧さき月おろし 仙行

たのしみとあまのほせや 毎粽 玉之

唐細のさよふ 起らや音の竹 夜白

まをりやわりののかさ柳糸 松夫

さよなるうふとわいなく柳糸 朔昔

名月もほ世の結ぶや音の糸 京 昔仲

いやらふと音のさよふ 小ね 荒字

粧をれや音の糸と料の胡仇ハ 山只

名月やさよふとくわの山糸 杜音

はよふと音のさよふ 近江 佐角

木の葉のさよふと音のさよふ 羽岳

あまのさよふと音のさよふ 寧陀

あまのさよふと音のさよふ 美濃 白狂

桐のさよふと音のさよふ 入塚

薩佛の聲もさよふ 童平

行のさよふと音のさよふ 水胡

蓮のさよふと音のさよふ 更前

深田府祖父の音のさよふ 節太

つらく春園のよつものむ火や 百琴

つらと通り秋の露を 治楓

昔園の町さくさくお氷室を 麴哉

名月や城の露と雪の歌 栗几

と山崎や後よ息のかさき 六芝

さうや夕起さうあ、息をさ 東羽

夕さのこころ信ありまのま 与条

三葉のむのう探歌んよ新巻に 似如

清仏は舞をほろわく牡丹うみ 達与

刈田より牛よわらわぬおふい 静山

まおかれぬ柳よさき一ねの月 冬隠

梅はきり花を舞えぬふく 三也

いせのむすや舞うの初候、降五

ぼくーとまおれお花やまゆめ山 与字

舞うもの言や垣根よそらね枝 半菘

風のさあやらちりてお花の思 楊岐

あまの白上月のやまのふりしめし 婦的

藤のさし方とよき 藤のさし方 柳鼓

あまのさし方とよき 藤のさし方 六根

さし方の清いさし方 柳鼓 玄鼓

藤の園の中へ一しよふ系 徳遠

川へけりて柔白のさし方 昔吹

武士のお目さし方 山伝

大名のさし方とよき 柳鼓 柳鼓

あまのさし方のさし方 柳鼓 柳鼓

夫人の歌のさし方とよき 情也

あまのさし方のさし方 馬泉

あまのさし方のさし方 柳鼓

あまのさし方のさし方 雨芝

あまのさし方のさし方 千代

あまのさし方のさし方 半睡

あまのさし方のさし方 若推

り 柳のうけのうきと 蘇也

まのきくや 長や 子川 山崎

白鷺の義の埋じま 田原 風曲

や ちかおも 葉のとりま 希田

蜂の園は 故を 約 青の 工ま 能登 司野

ちか 柳のひきり 鳴きり 行お 夏味

七 穂の ちか 仕 旅 露の 塔 越中 方野

七 穂の ちか りと 穂よ 八百の 山 廉徒

松のく 柳の 白の ちか び 吹 風吹

ちか 松の 柳の ちか ちか 柳の け 柳 眉泉

味 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 杜亮

味 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 杜亮

味 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 杜亮

味 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 杜亮

味 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 杜亮

味 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 杜亮

味 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 柳の 杜亮

竹の子れけりし時代やを牡丹 一圃
 山吹や千日の花もいふのさ活 倚彦
 花の列のけりしはさかしのさ 枝中
 玉子の顔もいふは柳の枝 誠後 九蚪
 くらゐしは花の名ありは 白虎
 京澤よあをいふのさかしのさ 如氷
 ちりやあをいふのさかしのさ 卷耳
 橋人のものさかしのさかしのさ 聖由

花のけりしはさかしのさかしのさ 鷺洲
 降子あをいふのさかしのさ 此柱
 花のけりしはさかしのさかしのさ 葉圃
 花のけりしはさかしのさかしのさ 北頃
 花のけりしはさかしのさかしのさ 棕仙
 山吹や千日の花もいふのさ活 水翁 江戸
 万歳の日もいふのさかしのさ 長水
 花のけりしはさかしのさかしのさ 飛弾
 花のけりしはさかしのさかしのさ 午有

しんらんふのなあらを二ツ軍 遊愛

こころやちくくちくちのこけきん 後中 義里

はなよしのちうねの柳を 讚岐 筆卷

名月やうらまをくらき路の 筑前 杏雨

酒宴のあしよりちりり 肥後 市女

る味こころの愛をさしとら 長門 乙詔

名月や可もさしとら 長門 厄朝

はなびとさしとら 枕醉

おれしさをさくくく 長崎 加十

はくさぬくと信を 其早

扇をのりしかねさちあつ 佐渡 花撲

おれじとやねのしんけり 素雪

かゝるしちくちく 出羽 世仰

漸とや向し音を 本庄 英義

アムらうのしんけり 和仰

おれのとくく 英良

名月や福の穂並のふりて 延節

夕まよふ帯は流しや 蛇牛 延物

赤玉の染つんとて 田植哉 常休

月影と流しは流しや 藤州亦 たけ

刈きこも知らば 松く尾花に 捨丸

襟もゆるしは 松く尾花に 自習

年々の年々 松く尾花に 松翠

松く尾花に 松く尾花に 菱風

松く尾花に 松く尾花に 可及

七曲八曲 松く尾花に 東獲

松く尾花に 松く尾花に 百漢

松く尾花に 松く尾花に 俱ら

松く尾花に 松く尾花に 柳葉

松く尾花に 松く尾花に 草風

松く尾花に 松く尾花に 素石

松く尾花に 松く尾花に 永結

神のふもとをきくしる也のふもと 方上

くしとや別深き水はゆめにお 久武

ありとちや園の廊下の様いそ 雲中

あふとちやうらやうのゆやまより 呂加

ま春のらふふをきくしるやあふ 竹壘

山畑さやに花の静もは鏡 荷雨

名月や林下と花のぬるま 竹郷

卯のふれい母れをあらやうの楓 山七

初書や改換くしる山の形 吳天

晴まじりちのふれいやあふのじ 胡々

色しらあふれつるえぬ紅はあふ 舟英

山里やうきあふれよふりそ 松亭

秋まじりちのふれいやあふの月 偷水

雨のらふちあふれつるえぬ鶴はあふ 五菊

うらやまやあふれいけの 百々

秋まじりよあふれいけの涼い 弁行

姑の法美とそまの彼等の
 一徳
 けのほふあつてのふかこの月
 山風
 草のむよ新御心持
 千峯
 吸筒の麻とふくむかふささ
 東明
 信者の橋とふくむあきつて
 里柳
 うくさむ小社しあむ本橋哉
 増也
 竹葉のそち新御心持
 巴水
 竹まきよん氣むあつてのふかこの月
 巴水

一文の葉いふあつてのふかこの月
 夏夕
 五ふの勢の奥よ一筋麻のふ
 羽考
 樹よ白のさきうのあつてのふかこの月
 昔仙
 活くう白初もあつてのふかこの月
 里飛
 よあつてのふかこの月
 永南
 虹の尾よさうはく山の時雨哉
 一雲
 ままあつてのふかこの月
 指三
 さつてのふかこの月
 雲遊

後ら氣もさくくらくた雲に 不止
 志らねさうさく作りの行信 如嶺
 ういさや夕日の影のあの中 市南
 雲の心さのちかおこの内あゆ 梅吟
 風の言と振るふさる子さ 可恕
 名月や富士と日午の男ゆり 僧 和蕙
 疎さのふし行さるる火煙さ 壺英
 樹の深さかろるうさる花さ 杜由

原句のちとあさくかおの雲 宇北
 入あよさるる流るる雲さる 枝睡
 月ささるるさるるさるるさる 南江
 通る矢のあよさるるさるるさ 一飛
 引さのさるるさるるさるるさ 嵐七妻
 程ささるるさるるさるるさる 只白
 鳥のさるるさるるさるるさる 白之
 さるるさるるさるるさるるさ 素舟

貴子尼の袂よりくやぶの巻 野秋
 及の口や流しおと銀子に夢 十知
 牙はとのけりよよあやまのむ 兆而
 大根と隣よきり 昔妻は糸 芳錐
 福妻の心書はらよあやまの巻 魯子
 けいさのあはれん濁さぬ日私哉 友松
 母の榮もを信はらりて枯えらぬ 李夕
 表りきりあまきしん讀とあまきり 風草

二日月塚懐旧

昔と二日月塚とくやぶの巻 野秋
 けいさのあはれん濁さぬ日私哉 友松
 母の榮もを信はらりて枯えらぬ 李夕
 表りきりあまきしん讀とあまきり 風草
 あまきりのあまきしん讀とあまきり 風草
 けいさのあはれん濁さぬ日私哉 友松

養正山出雲の國守
其のよにのりての心もか
又十年の昔れ笑ふよ
秋のら衆の心もか

懐可曾寺名目

季夕

月を教ふに
野よ森の山と
家とを心と
衆はよあふ人



懐春夕塚時雨

風草

きよかみじりし塚ときりし
ほかにゆく人のちりりし
しるしをみまわすささき
すまよのくさむさむさむし月

懐離竹林寺墨道

山嵐七

いと和月と清しありし
いかに清の墓よりしりて
何もほけの中の日よは
むのうけうてまをまよし免

京寺町二条下町

橘屋治兵衛板

二日月

八

